

# 回生 ニュース

K a i s e i N e w s

医療法人斎寿会回生病院

60号

2011.9月発行

発行/医療法人斎寿会回生病院

編集/鈴鹿回生病院

所在地/鈴鹿市国府町112番地1

TEL/059-375-1212

FAX/059-375-1717

URL/http://www.kaiseihp.com

編集協力/TCK Nagoya

- 1 医療の現場から  
6B病棟紹介!
- 2 あなたの街のお医者さん  
「旭が丘ファミリークリニック」
- 3 鈴鹿回生病院診療担当医師一覧表  
鈴鹿回生病院専門外来担当医師一覧表
- 4 交通案内(三重交通バス・シャトルバス時刻表)  
鈴鹿回生病院附属クリニック診療担当医師一覧表  
鈴鹿回生病院附属クリニック専門外来担当医師一覧表
- 5 健康コーナー「医食動源」  
・福祉用具シリーズ ~箸とスプーン~  
・炒り大豆ときのおこわ
- 6 回生.com  
「**投球障害に対する取り組み**」  
医志蘇通
- 7 Information  
・ちょこっと検査をご利用ください。  
・看護師を募集しています。他

## 号外 東日本大震災

## 今年の夏祭り

7月23日(土)夏祭りを開催しました。今年は「彩音会ゴールデンフラワーズ」をお招きし大正琴の演奏をしていただきました。コンサートの後は健康相談、カラオケ大会、バザー、レクリエーションを開催し、当日は入院患者さんをはじめ地域の皆さんにもたくさんご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。来年もお楽しみに!



大正琴演奏  
彩音会ゴールデンフラワーズ

回生キッズお歌の披露

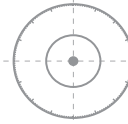
三味線演奏「響」

「上を向いて歩こう」演奏

### 皆さんからのmessage

夏祭り、盛り上がりましたね。患者さんも大勢参加されていました。車椅子での参加者も多数見られました。そばには看護師さんが付き添い、笑顔で対応されていました。あたたかいですね。富田先生の演奏、よかったですね。「見上げてごらん夜の星を」「上を向いて歩こう」一緒に口ずさみましたが、何かしら、こみ上げてくるものがありました。

病気で、どうしても塞ぎ込みになりがちでしたが、少し元気をもらいました。「がんばろう日本」、われら入院患者「がんばろう、がんばろう、回生病院!」と、いつも明るく、前向きに進みましょう。楽しい時間をありがとうございました。準備、設営にあたった実行委員会の皆様、お疲れ様でした。



# 6B病棟

## 紹介!

introduction

当病棟は、循環器系、呼吸器系の内科系救急患者さんや脳血管障害の患者さんが入院する混合病棟です。

### 特長

CCUを有しており心疾患や冠動脈疾患などの急性危機状態の患者さんを嚴重な監視体制でモニターし入院治療を行っています。こうした集中的治療が行われる集中治療室でもあり、迅速で的確な判断を必要としますので、そうした知識や技術などをもった看護が求められます。さらには、終末期の患者さんご家族のメンタルケアも大切な仕事と考えており、精神的不安を少しでも取り除けるよう努めています。



師長 杉山 和代

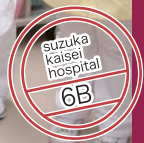
ができるので安心です。また能力の向上に必要な技術や知識をクリニカルラダー制で専門スキルを習得できるよう学習カリキュラムも整備されています。



### 6B病棟の こんないいところ!

緊迫した状況もある病棟ですので新人看護師にはできるかぎり声をかけます。特に「体の健康」のほか、ストレスなどが原因で生じる「心の健康」にも気を配り、悩みごとの解消の一助となるよう見守っています。新人教育においては、プリセプター制度を導入しています。先輩看護師が指導や相談役として新人看護師に寄り添っていますので安心です。

育児中の職員もあり、敷地内にある保育所「回生キッズ」に預けて働けるので子育てしながらの仕事復帰も安心です。また、みんな明るく元気な病棟です。不安でナースコールを手放せない患者さんから頻りにナースコールがあっても、いやな顔をせずに対応してくれます。やさしく温かい看護をめざしています。



6B自慢の癒やし空間。患者さんだけでなくスタッフも癒やされています。



最上階ならではの景色。

### 患者さんに伝えたいこと

病棟には、高齢者の方が非常に多く、在院日数が長くなってしまふ患者さんもおられます。不安になったり、心細くなっておられるので、患者さんには「いつもそばにいますよ」「何かあったら支えますよ」「何でも相談してくださいね」といった感じで、よく話しかけるようにしています。



### 体制

現在6B病棟では、看護師22名、パート看護師5名、看護助手5名の総勢32名で固定チームナーシング（一定期間受け持ち看護）とプライマリーナーシング（固定受け持ち看護）の併用で患者さんのケアを行っておりチームスタッフ全員が情報収集、現状把握、状態の予想などを理解し患者さんをチームで看ること

## 連携医療機関紹介

### 旭が丘ファミリークリニック



▲ 院長の木村英夫先生

#### 緑色の屋根が目印です。

旭が丘ファミリークリニックは白子中学校から県道41号を400mほどの場所にあります。ドアを入ってすぐの所に昔の医院名「木村醫院」の看板があります。これは陶器屋を営んでいたご祖父様が作られたものだそうです。天井が高いログハウス風の



院内はとても明るく、受付には天然水のウォーターサーバー、待合には畳コーナー、院内中央に冬にはあたたかい暖炉風のストーブが置かれ、居心地の良い待合が広がり、と



とろころに患者

さんが描かれた絵や押し花など沢山飾られています。

#### 町医者の原点

院長の木村英夫先生は、順天堂大学を昭和57年（1982年）にご卒業後、長野県佐久総合病院にて勤務医を経て、長野県の最東端にある川上村の「国保川上村診療所」の開設に携われました。当時川上村には診療所が無かったため、地域の皆さんは大変喜ばれたといえます。住民の健康、病気、けがなどへの不安から必要に迫られ開設された国保川上村診療所で、地域医療、いわゆる「町医者」としてご活躍されておられた時期に、お父様の木村和夫先生が「そろそろ一人は大変だな」ということで、平成4年に二人体制で診療がはじまったのだとか。お父様が昭和38年に開業された木村医院は、二人診療体制になったその数年後、建て直しをきっかけに「旭が丘ファミリークリニック」と名前を変え、現在、医師2名、看護師4名、事務員6名の12名体制で診療を行っています。

#### 趣味「まつり」を創ること。

「まつりを創ることが今は、一番楽しい」と豪語する英夫先生。8月6日（土）7日（日）に行われた今回で15回目となる「すずかフェスティバル」の実行委員です。昔は北海道まで出向き、ご自身で踊っていたほどの「まつり」好きなのだとか。現在は、創る側にまわって活躍されています。すずかフェスの期間はクリニックが休みになるため、「その代わりクリニックにはお盆休みはないんだよね」と笑顔で話される先生。15年間地域とともに創り上げてきた「まつり」には、先生ご自身の地域への思いが感じられました。そんな先生に患者さんへのメッセージを伺いました。

## DATA

TEL 059-386-1222

住所

鈴鹿市東旭が丘3-2-10

診療科目

●内科●東洋医学（漢方、鍼）

診療時間

午前／8時30分～12時00分

午後／3時00分～6時00分

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	○	○	○	×
午後	○	○	○	○	○	×	×

休診日

土曜午後、日曜、祝日



～当院は、西洋医学と東洋医学（漢方・鍼）のもと、「町医者」として病気の予防や早期発見・早期治療など、幅広く地域の皆さんのお役に立ちたいと考えています。私たち町医者は地域を守ることが使命だと思っています。地域を守ってこそ地域医療。患者さんからの要望には応えられるだけのことをしていきたいと思えます～  
今後も地域の「街のお医者さん」として、ご活躍されることでしょう。



福祉用具シリーズ 箸・スプーン

脳卒中後遺症などで手の麻痺があったり、ケガなどにより手指の動作が困難な場合に、使い易く工夫された箸やスプーンがあります。

リハビリテーション課  
理学療法士  
南 隼人



箸先がクロスしない箸

箸の持ち手が固定されており、軽く握るだけで箸先がずれることなく簡単に食べ物をつまむことができます。



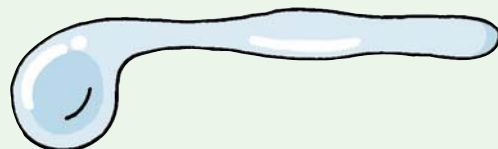
グリップ付きスプーン

スプーンの柄を太くし、握り易くしてあります。



プラスα

またスプーンの先を曲げて口へ運び易くしたのもあります。



発信@

栄養管理室

管理栄養士  
岡 久美子



ピックアップ食材  
大豆

炒り大豆と  
きのこのこのおこわ



●大豆

“畑のお肉”と言われるほど良質な蛋白質に富んでいるのが特徴です。蛋白質は筋肉や内臓などの細胞を構成するほか、酵素やホルモンの材料となるため欠かせない栄養素です。また、大豆には大豆イソフラボンといって病気の抑制を助ける働きをする貴重な食品成分“ポリフェノール”が含まれています。大豆イソフラボンは女性ホルモンのエストロゲンに似た働きをされると言われています。エストロゲンは、肌の新陳代謝を促進したり、コレステロールの増加を抑えて動脈硬化を防いだり、骨を丈夫にしたりする働きがありますが、閉経と同時に減少すると言われているので、1日に1品は大豆製品を取り入れるようにしましょう。

【材料】6人分

うるち米	1カップ
もち米	1カップ
※乾燥大豆	70g
(水煮なら150g程度)	
油	大さじ1
ごぼう	100g
人参	100g
しめじ	100g
えのき茸	100g
干しいたけ	8g
酒	1/2カップ
濃口醤油	大さじ2
A みりん	大さじ2
干しいたけの出し汁	1カップ
顆粒だし	4g

- ①米は2種類とも合わせて洗米し、30分程度水につけてザルにあげておく
- ②フライパンに油を入れて大豆を香ばしくなるまで炒めて冷ましておく
- ③ごぼうと人参は1cm程度の角切りにしておく
- ④きのこは石づきをとり、適当な大きさに切っておく
- ⑤炊飯釜に1~4の材料を入れ、Aの調味料を入れて炊飯する
- ⑥炊き上がったらずを良く混ぜる

【栄養成分】1人分

エネルギー	315kcal
たんぱく質	9.3g
脂質	4.9g
塩分	1.0g
食物繊維	5.2g

※乾燥大豆の戻し方

乾燥大豆をそのまま鍋に入れ、大豆が浸るより少し多めの水を入れる。沸騰させたら弱火で5~7分煮て火を止める。30分後、枝豆程度の堅さになっていればOK。

# 投球障害に対する取り組み

投球動作に  
よって生じる痛みや症状を総称

リハビリテーション課  
理学療法士  
佐久間 雅久



して「投球障害」といいます。特に肩・肘の痛みが顕著で、治療としては、安静と物理療法やストレッチングなどの対症療法が一般的です。しかし、疼痛が緩和して、競技復帰した際に痛みが再発する場合があります。これは安静などにより患部の炎症が治っても、痛みを引き起こしている原因が解消されていないことが多いからです。投球動作は下肢から始まり、体幹（お腹から胸）、上肢へと続く全身運動です。投球動作によって生じる痛みは、肩や肘のその部位に起因するものではなく、それ以外の要素が影響してくることが多く、原因も多岐に及びます。

当院では、投球障害患者さんに対して、局所の痛みに対するアプローチだけではなく、障害部位へストレスをかけている原因を追究し、その問題点に対して、多角的に(上下肢ストレッチング、体幹機能訓練、インナーマッスルトレーニング、投球動作の指導、場合によっては手術への検討など)アプローチしています。また、リハビリを進めていく上で、スポーツ専門の整形外科とも連携を図り、競技復帰に向けて段階的に行っています。

投球障害でお悩みの方は下記までご相談ください。

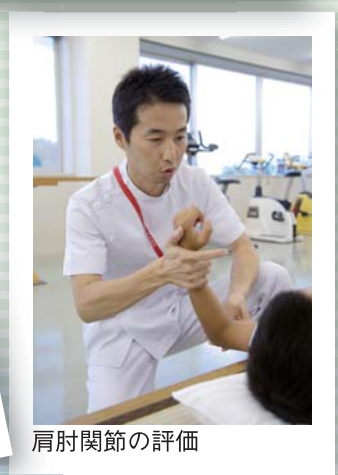
担当:佐久間  
Eメール:rehab.89@kaiseihp.com



投球フォームを撮影



下肢柔軟性の評価



肩肘関節の評価



投球動作の指導

## 投球障害の主な要因

a primary factor

- 投球動作の不良
- 下半身の柔軟性の低下
- 肩関節周囲の柔軟性の低下
- 肩関節周囲筋の筋力低下
- 使い過ぎ(over work)
- 解剖学的な組織の破綻 など

## いしそつう 医志蘇通

## C o l u m n

### ご意見にお答えします。

**Q** 職員さんの月間目標に“いつも笑顔で”と書かれています。笑顔のない看護師に出会うと、患者はそれだけでストレスがたまり、気が滅入ってしまいます。職員全員、笑顔のある、明るい職場にしていってください。期待しています。

**A** ご指摘ありがとうございます。笑顔を絶やさない接遇に留意するよう職員に指導していきたいと思っております。

### ◆◆ お褒めの言葉をいただきました ◆◆

初めて回生病院に入院しましたが、どこの病院より看護師さんも丁寧で、大変気持ちよく接していただきました。ナースステーションも整理されており、他の病院と違うところに、いくつも気づくことができました。4日間の入院でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

**A** 接遇面でお褒めのお言葉をいただく反面、厳しいご意見をいただくケースも多々あります。スタッフ全員が気持ちの良い対応ができるよう努めてまいります。

## 平成23年度看護師募集 病院見学会開催!



来春就職予定の看護学生の皆さん!就職をお考えの看護師の皆さん!どうぞお気軽にご来院ください。

**日時** 9月10日(土) 10:00~  
**場所** 鈴鹿回生病院 研修棟3階  
**採用試験** 10月15日(土)・12月3日(土)

ご希望の方は、見学日前日までに下記宛ご連絡ください。たくさんのご参加をお待ちしております。なお、上記日程以外でも見学は随時受け付けております。  
**連絡先:** 鈴鹿回生病院 看護部直通 TEL059(375)1332

## 第8回健康セミナーを開催します

**日時・場所:** 11月19日(土) 13:30~・研修棟3階にて  
**講話内容** テーマ「若さを保つには」  
・老化の防止のために(健康管理センター長 千田 豊)  
・中高年女性のヘルスケア(婦人科医師 川口 香)  
\*他、運動をやってみよう、簡易骨密度測定等。詳細は院内の配布資料をご参照ください。



**ご協力ありがとうございました** 東日本大震災で被災された皆さまへの義捐金箱を設置した所、温かいご支援をいただきました。皆さまから預かりました義捐金は7月末で総額 158,722 円となり、日本赤十字社へ寄託いたしました。皆さまの温かいお気持ちに、心から感謝申し上げます。 院長

## ボーリング大会を行いました

6/17・24(金) 互助会主催のボーリング大会は、多くの職員が参加しストライクにガーターと一喜一憂、大盛況でした。



## ご寄贈 ありがとうございます ございます

8月10日に株式会社ミヤマ代表取締役会長の宮村順生様より車椅子10台を寄贈していただきました。大切に使用し患者さんの療養環境の整備に役立てていきたいと思います。



## かいせいきっず info

今回の作品は、夏の風物詩、花火です。花火に見立てた園児の小さな手が、手作りの夜空に花を咲かせています。



病院のボランティアの方に毎週美しく生けていただいております。(病院文庫)

## 今号の

## 臨床検査課より~

「検査はしたいが時間に余裕がない。健診を受けているが途中経過を知りたい。病院にかかるまでもないと思うが少し気になる所がある。自分の検査結果を知っておきたい。」などの方を対象に少しでも健康のお手伝いができればと思います平成21年10月より始めた健康チェック「ちよこっと検査」は、平成23年6月現在275名の方々に利用いただいています。これを機に「ちよこっと検査」を定期的に受けられ、検査結果を自分で管理しておられる方もみえます。現代は予防医学の時代です。健康な時から自分の検査結果を把握しておくことが、早期発見早期治療に繋がると考えます。是非、ご自身の健康はご自身で管理していただくことが理想だと思います。

## お知らせ

## ちよこっと検査をご利用ください

健康チェック  
『ちよこっと検査』ご案内

受付:月曜日~金曜日 9時~16時30分  
申し込み場所:臨床検査課窓口

約一週間で検査結果に医師の診断を添えて郵送させていただきます。

- 健康が気になる方
- 動脈硬化が気になる方
- コレステロールが気になる方
- 腎臓・血糖が気になる方
- 貧血が気になる方
- 肝臓が気になる方 など

いろいろご用意しております。

## 編集後記

今回は「6B病棟紹介!」を中心に、医療連携紹介などをお送りいたしました。皆さんから本誌へのご意見・ご感想・ご要望等がございましたら、広報委員会までお寄せください。

鈴鹿回生病院 広報委員会  
〒513-8505 三重県鈴鹿市府府町112番地  
TEL059-375-1212  
mail:info@kaiseihp.com

### 開設の理念

### 生命への奉仕

### 病院の方針

- ▶ 地域の基幹病院として皆さんの医療と健康の増進に貢献します
- ▶ 患者さんの生命と個人の尊厳を守ります
- ▶ チーム医療を推進し 患者さん中心の医療を行います
- ▶ 医療の質を向上させ 時代の要請する医療水準を保ちます

### 私たちの目標

- ▶ 誰もが適切な医療を平等に受けられるようにします
- ▶ 診療内容・医療情報を適切に説明し 患者さんが最適な医療を選択できるようにします
- ▶ 医療環境を整備し 快適に診療が受けられるようにします

# 3.11 未曾有の出来事



1



3



2



4

1 スムーズな診療が行えるよう医師の診察前に問診をする看護師と薬剤師の様子です。

2 米崎コミュニティセンターにて患者さんの振り分けを行っている看護師です。

5 県立高田病院の1階受付です。当然ですが、全く機能していません。

## 東日本大震災

3 米崎コミュニティセンターから大船渡病院へ救急搬送が必要となった患者さんの治療をする齋藤Drです。

4 写真中央をよくご覧ください。傘をさして歩く親子がみえますか？これは気仙沼にて、瓦礫の中を小学生が親御さんに付き添われ帰宅する様子です。

6 陸前高田市内、破壊された救急車がそのまま取り残されていました。



5



6



津波が押し寄せて塩水に漬かりながらも桜が満開でした。



活動期間中は寝袋での生活でした。またその日の反省などもこの場所で行っていました。



コミュニティセンター内。各県の医療班や高田病院のスタッフ合同ミーティング。



今まで飲んでいた薬についてお薬手帳をもとに問診する薬剤師。

## 第1班 副院長 松島康より 活動期間 4/24~29

被災地、陸前高田市の医療支援に協力する機会を得た。現地では米崎コミュニティセンターの狭い仮設診療所に全国から医療支援チームが日々集まり、状況報告を行い持ち場に向かう体制がすでに構築されていた。受診者には、持参薬や問診などから受けていた治療を推測し、投薬/処置を行う。そのカルテの表に鉛筆で「なし」の文字。家が流されて「ない」ことを示す。道中で目にしてきた想像を絶する悲惨な現実の真只中に病を抱えた患者さんたちがいた。患者さんだけでなく院長を含め職員の中にも家族を亡くし、また家がなく避難所から通勤してくる人は多い。その人たちが、患者さんが、笑顔で「ありがとう」とお礼を言ってくれる。帰路に着くとき、この人たちを置いて帰ることへの心痛の念、そして戻った時、家族や仲間の「おかえり」の言葉に、帰る所があり、待っていてくれる人のいる幸せに胸を熱くしたのは私だけではなかったようだ。

## 第2班 診療部長 齋藤誉宏より 活動期間 6/20~24

三重県が平成23年3月18日より実施している医療救護活動第25班として、また当院としては松島副院長が率いた第1班に続き第2班として、岩手県陸前高田市の県立高田病院仮診療所で活動してきた。医師：齋藤、看護師：照屋、事務：西口の3名のチームで活動した。連日100数名の患者さんが来院し、外来診療をリーダー的役割で行ってきた。診療は慢性疾患の定期処方に加え震災から約3カ月が経過しており、避難所や仮設住宅での長期生活によるストレスに起因する疾患が多く見受けられた。内服薬は不備はなかったが、静注薬には限りがあり、隣町の総合病院へ搬送を余儀なくすることがあった。被災者である病院職員、患者さんたちは、過去の悲しみに暮れることなく、復興に向け目線は先を見据えていた。しかし心の奥底に潜む多大な傷を垣間見ることがあった。今回の経験で、普通に生活ができ普通に仕事ができる自分の今置かれている環境が、いかに幸せなことなのか痛感した。自分のできることは復興状況を常に見届けて、機会があればまた陸前高田を訪問したいと考える。



### 事務 岡本 継治

4月24日午前7時、多くのスタッフに見送られて岩手県陸前高田市に向かいました。移動手段は東北新幹線が不通のため片道約1,000キロを乗用車での移動となりました。途中、日本の象徴でもある富士山や東京スカイツリーを車窓から眺めることができましたが、(翌日)陸前高田市内に入ったとたん此処が同じ日本なのかと目を疑う光景を目の当たりにしました。医療支援救護活動は、県立高田病院が壊滅の被害を受けて診療機能を失ったため、仮の診療所として米崎コミュニティセンターで外来診療を行うこととなり、私たちはその外来診療に携わりました。仮診療所には1日におよそ100名の患者さんが来院され、多くは高齢者で主に慢性疾患の治療を行いました。米崎コミュニティセンターまでの交通手段は車での移動手段しかないで、家族や近所の方に付き添われて来院されていました。その光景は「家族の絆」と地域での「支えあう強さ」を感じました。また、皆さん診察を終えると「ありがとう」「三重の方には大変お世話になります」と声を掛けていただき東北地方の方々への思いやりのあたたかさを感じました。私たちの活動は限られた期間でありごくわずかではなかったと思いますが、今後も継続して支援する必要があると思えました。被災地の1日でも早い復興をお祈り申し上げます。

### 事務 西口 高生

6月20日から24日の間、当院としては2班目となる医療支援に従事しました。2班の移動手段はすでに復旧していた新幹線でした。現地では受付周りを担当しましたが、被災された方から、「遠くからありがとう」の言葉を掛けられることも多く、何もかも失い3ヶ月がたった今、いろいろな悩みや問題を抱えながらも被災した高田病院の職員さんを始め訪れる患者さんも前向きに生きようと必死になっている姿に驚きを隠せず、こちらが励まされる場面も多々ありました。全国から支援チームが集結し、短期間でチームが交代していく医療支援で、できる限りの活動を行ってききましたが、どこかもどかしい気持ちが残ったのも事実です。テレビ等で紹介される被災地と、実際にそこで暮らす方々と接し、壊滅した陸前高田市内や病院の前に佇み風や匂いを肌で感じるのでは、自分の心の中に刷り込まれていくものの違いに動揺を覚えました。まだまだ復興には程遠い中、高田病院の職員さんは7月下旬には県外からの医療支援を原則中止し自分達だけで外来診療が行えるよう必死に準備を進めています。今回の医療支援を通じて、震災に対する個々の気構えの大切さと、災害時に対する事前準備、地域の方々と協力して困難を乗り越える大切さを改めて感じました。